

# 新規植物成長調整剤による黒系ブドウ高品質化栽培の実証

農業技術センター普及指導部

実施期間: 令和6~7年

## 課題・目的

- 近年の温暖化により夏季の夜間温度が下がらないことで、ブドウの着色不良が発生している。
- そこで、ブドウの着色促進を目的として登録された新規植物成長調整剤(アブサップ液剤)による果皮色の向上程度を確認するとともに、ブドウの既存の栽培管理作業との適合性を検討し、現地への導入可能性を探る。

## 活動内容

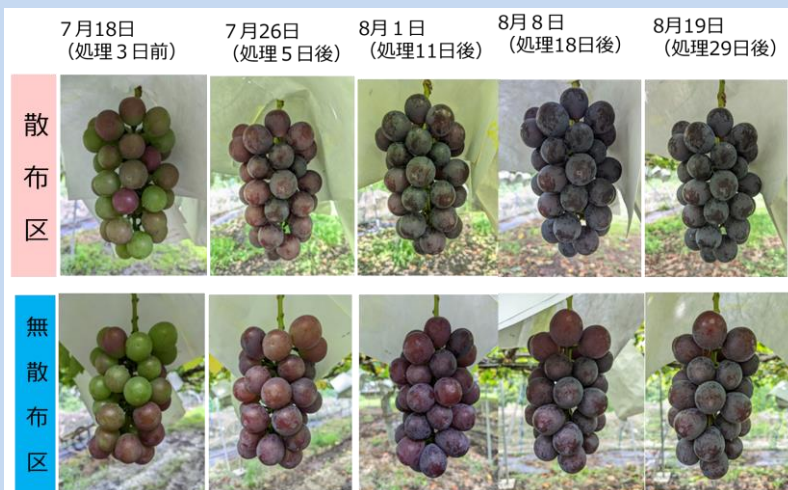
■藤沢市内の生産者圃場に、調査研究展示ほを設置し、‘ピオーネ’(R6)、『藤稔』『クイーンニーナ』(R7)へのアブサップ液剤を散布した。結果、散布区は、無散布区と比べて、着色の向上が認められた(図1)。ただし、『クイーンニーナ』は、日当たりによる着色のばらつきがみられたことから、光環境の改善による着色向上対策のほうが効果的と考えられる。

■収穫時の品質は、散布区と無散布区の果粒重、糖度は同等であり、アブサップ液剤の散布は果皮色のみ向上し、他の果実品質に悪影響を及ぼさない。

■また、散布用ノズルを使用すると、霧吹きと比べて、水滴が微細かつ果実面への水滴の付着が均一になり、ぶどう1房に対する薬剤散布時間は13.9秒から2.6秒に短縮する。

■講習会で試験結果の提供や、意見交換を実施した結果、農業者の関心が高まっており、今後の普及が見込まれる。

右図 ‘ピオーネ’における散布区と無散布区の果皮色の経時変化



## 今後の展開

■引き続き、本技術を含む着色向上対策について、講習会等での情報提供を行い、ブドウの品質向上を支援する。また、本剤の使用にあたっては、農薬登録上の対象品種をよく確認し、糖度が収穫適期となっていることも確認の上、販売するように周知していく。